2023年度　　国際ペットワールド専門学校　シラバス

科目名	PC実習Ⅰ				
担当教員	古俣　秀子		実務授業の有無	○	
対象学科	1年生全学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	Excelの理解を深め、自信をもって活用できる基本技能を身につける				
学習目標（到達目標）	Excel表計算処理技能認定試験　３級　取得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	Excel2021 クイックマスター 基本編　Excel2021問題集				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	新規フォルダー作成・ファイルコピー Chapter1 Excelの基本　Chapter2 データの編集	画面構成、用語の確認 範囲選択　文字の入力、数値の入力
2	Chapter2 データの編集 ●問題集 練習問題1【問題2】(1)～(3)	日付の入力、オートフィル、数式、合計関数、相対参照・絶対参照、コピー・移動
3	Chapter3 表の編集 ●問題集 練習問題2【問題2】(1)～(3)	セルの書式設定、表示形式
4	Chapter7 関数	基本関数の意味と使い方（平均、最大、最少、データの個数、順位）
5	Chapter8 データベース機能 ●問題集 練習問題1【問題2】(4)～(6)、【問題3】	並べ替え、フィルター
6	●問題集 練習問題2【問題2】(4)～(6)、【問題3】 Chapter5 グラフと図形の作成　Chapter6 ブックの利用と管理	グラフ作成・編集、ワークシート名の変更、シートコピー
7	Chapter4 ブックの印刷 ●問題集 練習問題1 完成	ページ設定、グラフ作成・編集の基本、スパークライン
8	●練習問題２～3	解説誘導しながら 答案解答作成
9	●練習問題4～5	各人のペースで解答 巡回してチェック・ポイント解説
10	●練習問題6～7	〃
11	●練習問題8～9	〃
12	●練習問題10、模擬問題2	〃
13	●模擬問題3～4	〃
14	●模擬問題5～6	〃
15	●試験実施プログラム 模擬問題1	前問題振り返り 時間計測して実施、解答ファイル採点
16	検定	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	パソコンスキルはどの業界へ就職しても必須となります。パソコンの基本的な操作の仕方、表計算やデータを利用した簡単な資料作成の方法をしっかりマスターしましょう。授業中に分からない事や上手く出来なかった事は休み時間を利用して練習をしましょう。

実務経験教員の経歴	一般向けパソコン教室において20年以上関わっていた

2023年度　　国際ペットワールド専門学校　シラバス

科目名	PC実習Ⅰ				
担当教員	古俣　秀子		実務授業の有無	○	
対象学科	1年生全学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	日本語文章入力をある程度の速さで、正確に行えるようにする Wordの理解を深め、活用できる基本技能を身につける				
学習目標（到達目標）	Word文書処理技能認定試験３級程度の知識及び技術の習得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	Word2016 クイックマスター 基本編 Word文書処理技能認定試験 ３級問題集				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	新規フォルダー作成・ファイルコピー Chapter1　Wordの基本	授業の目的の理解 Windows基本操作、基本知識の重要性
2	Chapter2　文字の入力と編集の基本操作 Chapter3　文書の編集	日本語入力の基本操作の確認 正確な入力の重要性、コピー・移動の状況に応じた方法
3	Chapter3　文書の編集	Wordにおける段落書式の重要性
4	Chapter3　文書の編集 Chapter4　文書の印刷	C2～3で学習した内容を該当設問で確認
5	Chapter5　文書の作成	タブ機能の重要性の理解、タブ設定とタブ挿入の理解 ルーラーの重要性の確認
6	Chapter6　表を使った文書の作成	表作成・編集の基本の理解、操作に応じたリボンの確認 C4～6で学習した内容を該当設問で確認
7	Chapter7　図形や画像を使った文書の作成	オブジェクト作成・編集操作の基本の理解
8	練習問題１	QMで学習した機能を確認しながら設問解答 実用目的の成果物として完成させる
9	練習問題２～	「作成」ファイルと「編集」ファイルの保存の必要性、名前を付けて保存と上書き保存の理解の重要性
10	練習問題	完成確認後、各自で次の練習問題に進む 練習問題2「編集」の確認と疑問点などの確認・回答
11	練習問題	〃
12	模擬問題	〃
13	模擬問題	〃
14	試験実施プログラム 模擬問題	プログラム操作方法・試験の流れの確認 画面配置に慣れる。解答ファイル採点
15	試験実施プログラム サンプル問題	前問題振り返り　時間計測して実施　解答ファイル採点
16	期末試験/検定	検定必須受験学科（飼育、DT、ビジネス、飼育ケア）は検定受験

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	パソコンスキルはどの業界へ就職しても必須となります。パソコンの基本的な操作の仕方、文書作成の方法をしっかりマスターしましょう。授業中に分からない事や上手く出来なかった事は休み時間を利用して練習をしましょう。

実務経験教員の経歴	一般向けパソコン教室において20年以上関わっていた

2023年度　　国際ペットワールド専門学校　シラバス

科目名	ビジネスマナー				
担当教員	小林　美江		実務授業の有無	×	
対象学科	ペットケア・ビジネス	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	組織、お客様、取引先などと良好な人間関係を保ちつつ、仕事の成果をあげるためにビジネスマナーを身につける。 また、9月に受験をする社会人常識マナー検定に向けて、過去問題は宿題で行い、合格点に達しない学生は補講を行い、合格できる準備を整える。 対面授業で実施。				
学習目標（到達目標）	社会人常識マナー検定に合格できる、ビジネスマナーを身につける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	株式会社ウイネット　実践ビジネスマナー 公益社団法人全国経理教育協会　社会人常識マナー検定試験				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	仕事に取り組む心構え	P8-12 教務室入退室・書類の提出の仕方チェック
2	報告・連絡・相談、会社の組織	P13-16 指示を受けて業務を遂行し報告するロールプレイング
3	基本動作、言葉の遣い方	P18-30 お辞儀・椅子の座り方チェック
4	受付の仕方、名刺の渡し方	P32-40 受付ロールプレイング
5	取り次ぎの仕方、案内の仕方	P41-48 受付→応接室案内ロールプレイング
6	応接室の案内の仕方、お茶の出し方、環境整備	P49-56 お茶出しロールプレイング
7	電話の受け方、伝言メモ	P55-69
8	電話のかけ方	P70-76 インターンシップ確認電話ロールプレイング
9	慶事業務	プリント
10	弔辞業務、お見舞い	プリント
11	社内で使用する備品、郵便の取り扱い	プリント
12	ビジネス文書とは、社内文書作成の仕方、メールの送り方	プリント PC（スマホ）でメール作成送信添削
13	社外文書作成の仕方	プリント PCで社外文書作成提出添削
14	お礼状の作成の仕方	プリント 直筆でお礼状作成提出添削
15	期末試験	
16	期末試験、解答・解説	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(60点未満)とする。	積極的にロールプレイングに取り組み、提出物の期限は守ること。 インターンシップ前後に行う電話がけやお礼状作成など、マニュアル通り行えないことを理解し、臨機応変に応対できるように毎日の学校生活でもビジネスマナーを意識すること。

実務経験教員の経歴	

2023年度　　国際ペットワールド専門学校　シラバス

科目名	ペットフード概論				
担当教員	稲川　祥子		実務授業の有無	○	
対象学科	ドッグトレーニング学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	主に犬猫におけるペットフードの種類と目的、選び方を学ぶ。また、与えてはいけない食べ物の種類と症状を学び、代替食品があることを提案できるようになる。様々なペットフードやパンフレットに記載されている専門用語を理解し、飼い主に適切な栄養相談および指導を行う際の基礎知識を習得する。				
学習目標（到達目標）	注意すべき食材を知り、必要エネルギー量やおやつの給与量が計算でき、ペットフードの選び方について販売アドバイスができることを目的として学習する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	緑書房発行　ビジュアルで学ぶ動物看護学 愛玩動物飼養管理士1級スクーリング資料、課題報告問題				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	栄養素の基本 犬と猫の栄養素の違い	テキスト、資料を使用
2	ペットフードの種類と表示	小テストの実施、テキスト、資料を使用
3	ペットフードの選び方	小テストの実施、テキスト、資料を使用
4	ペットフードの与え方と給与量計算①	小テストの実施、テキスト、資料、電卓使用
5	ペットフードの与え方と給与量計算②	小テストの実施、テキスト、資料、電卓使用
6	BCS評価と栄養評価 飲水	小テストの実施、テキスト、資料を使用
7	おやつの給与量の計算	小テストの実施、テキスト、資料、電卓使用
8	ペットフード販売演習	
9	与えてはいけない食べ物と代替食品	小テストの実施、テキスト、資料を使用
10	体にいい食べ物 サプリメント	小テストの実施、テキスト、資料を使用
11	手作り食へのアドバイス	小テストの実施、テキスト、資料を使用
12	ライフステージ別の栄養	小テストの実施、テキスト、資料を使用
13	ペットフード安全法	小テストの実施、テキスト、資料を使用
14	ウサギ、モルモット、ハムスターの食事	小テストの実施、テキスト、資料を使用
15	まとめ	
16	期末試験	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(60点未満)とする。	解剖生理の復習、小テストを実施し、理解度を確認する。

実務経験教員の経歴	動物病院にて動物看護師として約5年の実務経験

2023年度　　国際ペットワールド専門学校　シラバス

科目名	エキゾチックアニマルⅠ				
担当教員	広川　美紀		実務授業の有無	○	
対象学科	動物系1年	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	現在飼育されている動物は、犬猫だけではないため、生体の特徴、飼育方法を理解する。 販売に携わる際には、飼育方法をアドバイスできるようになる。 対面授業で実施。				
学習目標（到達目標）	愛玩動物飼養管理士2級合格。飼い主に飼育アドバイスが出来るようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	愛玩テキスト２巻				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ウサギ　飼養管理	
2	ハムスター　飼養管理	
3	モルモット　飼養管理	
4	フェレット　飼養管理	
5	チンチラ　飼養管理	
6	犬猫分類、歴史	
7	犬、猫の特徴	
8	犬猫と暮らす、環境	
9	犬猫のライフサイクル①	
10	犬猫のライフサイクル②	
11	犬猫の社会化	
12	しつけについて	
13	犬猫の毎日の生活　食事	
14	犬猫の発情、健康管理	
15	テスト＋(解説)	
16	解説	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(60点未満)とする。	

実務経験教員の経歴	動物病院にて動物看護師兼トリマー　10年、独立サロン経営　18年

２０２３年度　　国際ペットワールド専門学校　シラバス

科目名	ドッグトレーニング実習Ⅰ				
担当教員	長谷川　あや甫		実務授業の有無	○	
対象学科	ドッグトレーニング学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	1年生と2年生が同じトレーニングを行い、2年生が1年生にトレーニングの方法を伝えることで、人に伝える力を養う。1年生は2年生の伝え方を学び、トレーニング技術を向上する。 2年生はトレーニング方法も考える。				
学習目標（到達目標）	2年生は人（飼い主）にトレーニングをアドバイスすることができるようになる、1年生は伝えられたことを実施し、トレーニング技術を向上することができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	無し				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	Goマットのトレーニング	（1．８m離れたところのマットまで送り出す。犬の四肢（特に前足）がはみ出ないこと。OKが出るまで、マットで伏せていること）
2	Goマット、アラウンド＆前進、箱に入る（高さ、広さ、誘導Orシェービング）→箱の中でスピンかターンor箱に乗る	アラウンド＆前進：アラウンドをしながら人は止まらずに前進し続ける
3	Goマット、アラウンド+前進、箱に入る（スピン＆ターン）	
4	Goマット、アラウンド+前進、箱に入る（スピン＆ターン）スピン＆ターン（声符で）、足を後ろから跳ぶ、立って待って（伏せ、おすわりから誘導で）	
5	スピン＆ターン（声符で）、足を後ろから跳ぶ、立って待って（伏せ、おすわりから誘導で）、マズル（小指側から鼻先を入れて来て止まる）、ハンドラー役と犬役に分かれてハンドリング（ヒーリング）	
6	スピン＆ターン（声符で）、足を後ろから跳ぶ、立って待って（伏せ、おすわりから誘導で）、マズル（小指側から鼻先を入れて来て止まる）、ガムテープのタッチ（壁の垂直面）（鼻先でタッチ）	
7	スピン＆ターン（声符で）、足を後ろから跳ぶ、立って待って（伏せ、おすわりから誘導で）、マズル（小指側から鼻先を入れて来て止まる）、ガムテープのタッチ（壁の垂直面）（鼻先でタッチ）	
8	スピン＆ターン（声符で）、立って待って（伏せ、おすわりから誘導で）、マズル（小指側から鼻先を入れて来て止まる）	
9	ガムテープのタッチ（壁の垂直面）（鼻先でタッチ）、フロント、手のウィーブ	
10	フロント、手のウィーブ、立って待って（おすわり、伏せから誘導で）	
11	後期テストの打ち合わせ（ゲーム）	
12	企画ゲームのリハーサル	
13	企画ゲーム注意点、改善点の指導	
14	実技試験（企画ゲーム）実施	
15	実技試験（企画ゲーム）実施	
16	実技試験解説	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
実技試験100％ 成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	しつけインストラクターとして25年以上活動

２０２３年度　　国際ペットワールド専門学校　シラバス

科目名	犬管理実習Ⅰ				
担当教員	中野　貴行		実務授業の有無	×	
対象学科	ドッグトレーニング学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	○一般の犬を預かることで飼い主と犬とのコミュニケーション能力の向上 ○知らない犬をハンドリングすることで危険を予測、回避するリスクマネジメント能力の向上 ○対面授業で実施				
学習目標（到達目標）	将来に役立つ犬の基礎ハンドリングと接客を含めたコミュニケーション培う事が出来る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	愛玩飼養管理士２級教本、セルフコーチング、犬のしつけきちんとブック				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	動機付けと管理の注意事項	犬を預かり管理することへの動機付けと注意
2	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
3	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
4	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
5	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
6	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
7	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
8	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
9	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
10	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
11	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
12	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
13	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
14	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
15	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
15	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
15	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
16	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(60点未満)とする。	一般の犬が参加するため、犬に対してケガが無いような接点を実行する。

実務経験教員の経歴	専門学校教員として15年勤務

２０２３年度　　国際ペットワールド専門学校　シラバス

科目名	しつけトレーニング実習				
担当教員	金子　真弓		実務授業の有無	○	
対象学科	飼育、ショップビジ、DT、美容	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	1.犬のトレーニング実技を行う。 2.実際の道具やデモンストレーションを見る。 3.テキストやホワイトボードを使用し内容を説明。				
学習目標（到達目標）	正の強化と負の強化を使ったトレーニング方法を理解し、実行できるようになる 犬と関わる上での必要な事や必要な物を理解する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	犬の問題はこうして直す「THE Tool Box」				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	・犬の観察・しつけとは？、問題行動とは？飼い主にとって好ましくない行動⇒好ましい行動として肯定文として説明	
2	・リーダー、アルファとは？上下関係、主従関係×、パピーの給餌について、所有欲について　・おもちゃで遊ぶことについて ・リードの持ち方、近くでフード、近くを歩く、回す	テキスト使用
3	・飼い主の手を良いものに学習させる　・"ピーナッツバター療法"でケア時に条件付け、マズルコントロール、アルファロール× ・トレーニング⇒回す、オスワリ、フセ（誘導で）	テキスト使用
4	・ケージ/クレートに関して（何故ケージが必要か？） ・オスワリ、フセ、タテをそれぞれの姿勢から誘導 オスワリ⇔タテ、オスワリ⇔フセ、フセ⇔タテ	実際の道具を見せる、トレーニングの方法をデモンストレーション
5	・犬を家族として迎え入れる前に準備するモノは？ ・名前を教える、アイコンタクト、近くを歩く	実際の道具を一部見せる
6	・犬を家族として迎える前に準備しておきたいコトについて どんな犬？成犬or子犬orオスorメス、犬種など ・実習：コングを作る（中に食べ物を詰める）、回す、横につける、アテンションなど	
7	・ストレスについて　3つの"F"、カーミングシグナルについて ・実習：立ち方について（バランス良く立つ、犬側の肩に立ち犬側を向くこと）	テキスト使用
8	・犬の行動問題について：原因は？犬種の特性、身体の不快、先天的な要因、社会化不足などについて ・実習：Tタッチ、立ち位置（犬の肩の辺りに立ち、犬側を少し向く）、リードの持ち方	
9	・学習理論：報酬はランダムにしていく、誘導から合図をつける⇒ハンドシグナル ・回す、オスワリ⇔フセをハンドシグナル、マッテ	
10	・トイレトレーニングについて ・ハンドシグナルでオスワリ、フセ、回す、マッテ、Tタッチ	DVD鑑賞
11	・合図を教えるトレーニングについて	
12	・嫌悪刺激を使ったトレーニング⇔ほめる（モチベーションを使った方法） ・自発的アイコンタクト、左右にご褒美を持った手を移動させてトレーニング	
13	セトルダウン：飼い主の足元で大人しく落ち着く（フセの状態で）、マグネットトレーニング：誘導とは異なり、全てのトレーニングの幹	足元でフセるトレーニングのデモンストレーション
14	・ボディランゲージ、カーミングシグナルについて ・呼び戻し、近くを歩く（人がポール役になり、8の字で歩く）	DVD鑑賞
15	・古典的条件付け（拮抗条件付け、逆条件付け）、正の罰について罰とは？：嫌悪刺激 ・古典的条件付けでブラシ、手、ハンドタオルで触る刺激に慣らす	
16	・散歩の引っ張りについて（ジェントルリーダー、ハルティ、イージーウォークハーネスについて）	実際の道具を見せてデモンストレーション
17	・シェービングについて（人だけでクリッカーの練習）	トランプを使用して、人同士で練習
18	・動画鑑賞：パピークラス、フリースタイルなど ・実習：クリッカートレーニング、犬がイスの上に前足を乗せる、イスの下に頭を入れる	モニターより動画観賞（実際の教室の様子など）
19	・Tool Box：健康、環境を豊かにする、リーダーシップ、管理、妥協、原因を取り除く、系統的脱感作、ご褒美を取り除く ・ハンドシグナルのトレーニング（オスワリ、フセ、回す）	テキスト使用
20	・Tool Box：両立しない行動にご褒美を与える、慣らす、関連付けの改善、嫌悪刺激、Tool Boxを使って、問題を解決を考える（8組に分かれて）、実習：呼び戻し	テキスト使用
21	・シェービング（クリッカートレーニング） ・人同士でクリッカートレーニング：クリッカー配布	
22	・シェービング②（クリッカートレーニング、基準が大きい場合は細かく分ける） ・人同士でクリッカートレーニング、犬でのシェービングデモ：イスの下に頭を入れる	
23	・シェービング③（クリッカートレーニング） ・人同士でクリッカートレーニング、犬にクリッカーでトレーニング	
24	・シェービング④（クリッカートレーニング） ・人同士でクリッカートレーニング、犬にクリッカーでトレーニング（オスワリ、フセでクリックする）	
25	・シェービング⑤（クリッカートレーニング） ・人同士でクリッカートレーニング、犬のクリッカーでトレーニング（イスの下に頭を入れる）	
26	・シェービング⑥（クリッカートレーニング） ・人同士でクリッカートレーニング、犬のクリッカーでトレーニング（イスの下に頭を入れる続き）	
27	・犬の本能：食物獲得、危険回避、繁殖⇒トレーニングで食物獲得を利用、食べ方が強い（痛い）犬のトレーニング、おもちゃ遊びデモ　・行動に合図を付ける	
28	・犬の本能：食物獲得、危険回避、繁殖⇒トレーニングで食物獲得を利用、食べ方が強い（痛い）犬のトレーニング、おもちゃ遊	
29	・古典的条件付、拮抗条件付、脱感作について	
30	・オペラント条件付けについて	
31	・呼び戻しについて	
32	・トリーツをランダムにしてルアーを無くすトレーニングについて	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
レポート提出100% 成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	しつけインストラクターとして25年以上活動

２０２３年度　　国際ペットワールド専門学校　シラバス

科目名	ドッグマネジメントⅠ				
担当教員	梅本　実生		実務授業の有無	×	
対象学科	ドッグトレーニング学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	健康管理や必要な道具、管理で注意すべきことなどを理解する。パワーポイントや資料配布で授業を進めていく。				
学習目標（到達目標）	犬の管理に必要な知識を身に付け、それをアドバイスできるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	プリント配布				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	・授業概要 ・犬の世話で必要なものとは？	
2	・GCTに関して 概要と来年受験への動機付け	
3	・日々の健康チェックに関して 健康チェック部位と病気	
4	・管理面でのチェックに関して	
5	・ケージに関して種類と組立	
6	・道具に関して① リード、カラーなど装着する道具紹介	
7	・道具に関して② コングやおもちゃ類紹介	
8	・散歩に関して① 散歩時に必要なものと注意点	
9	・散歩に関して② 散歩中人が近づいてきたら？犬連れの人が近づいてきたら？ ケーススタディと対処	
10	・グループで犬を管理することとは？ 複数管理のメリット、デメリット	
11	犬種プレゼンテーション（調べる）	
12	犬種プレゼンテーション（調べる）	
13	犬種プレゼンテーション（発表）	
14	まとめ	
15	期末試験実施	
16	試験解説	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
筆記試験100% 成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	ペットショップでトリマーとして4年勤務

２０２３年度　　国際ペットワールド専門学校　シラバス

科目名	飼養管理士総論				
担当教員	山田　佳枝		実務授業の有無	×	
対象学科	動物系	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必須	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	動物が「命」あるものとし、「人と動物の共生」が必要となっている。そのための動物種の生態、管理や飼育方法について知識を身に付ける。また、動物に関連する法理についても学ぶ。 愛玩動物飼養管理2級の合格に向け、授業を行っていく。				
学習目標（到達目標）	動物に関わる法律を理解し、動物種の生態・飼育方法をアドバイスできるようになる。 愛玩動物飼養管理士2級の取得。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	愛玩動物飼養管理士2級教本				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	鳥類について　形態的特徴、飼養管理（インコ、オウム）	単元が終了した時点で必ず確認テストを実施
2	鳥類について　飼養管理（フィンチ、ニワトリ、アヒル、ハト）	
3	鳥類について　繁殖、確認テスト	
4	からだの仕組み　からだの成り立ち、栄養・酵素を取り入れる	
5	からだの仕組み　老廃物の排出、情報を取り入れる、情報伝達	
6	からだの仕組み　確認テスト	
7	愛玩動物飼養管理士の社会活動	
8	愛玩動物飼養管理士とは	
9	愛玩動物飼養管理士について　確認テスト	
10	動物愛護論Ⅰ　海外と日本について	
11	動物愛護論Ⅰ　動物愛護運動について	
12	動物愛護論Ⅰ　確認テスト	
13	人と動物の関係学①	
14	人と動物の関係学②	
15	人と動物の関係学　確認テスト	
16	期末テスト	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	ショップトリマー麗4年、独立サロン経営4年

２０２３年度　　国際ペットワールド専門学校　シラバス

科目名	犬の世話と管理Ⅱ				
担当教員	中野　貴行	実務授業の有無	×		
対象学科	ドッグトレーニング学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	6	時間数	204
授業概要、目的、授業の進め方	1頭の犬の管理を複数人以上で行い、担当者間で情報共有を行いながら進めていく。				
学習目標（到達目標）	犬の健康面、行動面などを検討しどのように管理するかを考え実行できるようになる。 一般の犬を預かり、管理を行うことにより将来犬に関わる仕事を行う上でのイメージが出来るようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	無し				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	世話の流れと注意事項、預かりの犬についての流れと注意事項	
2	担当犬の世話『散歩の注意について』、預かりの犬の管理	
3	担当犬の世話『健康チェック①』、預かりの犬の管理	
4	担当犬の世話『環境整備』、預かりの犬の管理	
5	担当犬の世話『グルーミングのケア』、預かりの犬の管理	
6	担当犬の世話『掃除について』、預かりの犬の管理	
7	担当犬の世話『散歩でのトレーニング』、預かりの犬の管理	
8	担当犬の世話『GCTを見据えた管理検討』、預かりの犬の管理	
9	担当犬の世話『グルーミングケア』、預かりの犬の管理	
10	担当犬の世話『環境整備』、預かりの犬の管理	
11	担当犬の世話『健康チェック②』、預かりの犬の管理	
12	担当犬の世話『掃除について』、預かりの犬の管理	
13	担当犬の世話『散歩について』、預かりの犬の管理	
14	担当犬の世話『ケアでのトレーニング検討、実施』、預かりの犬の管理	
15	担当犬の世話『前期の振り返り①』、預かりの犬の管理	
16	担当犬の世話『前期の振り返り②』→後期へ実施、預かりの犬の管理	
17	担当犬の世話『2年生から1年生への指導について』、預かりの犬の管理	
18	担当犬の世話『2年生から1年生へ散歩での注意事項』、預かりの犬の管理	
19	担当犬の世話『2年生から1年生へ管理面で考えること指導』、預かりの犬の管理	
20	担当犬の世話『2年生から1年生へケアについて』、預かりの犬の管理	
21	担当犬の世話『1年生に散歩してもらい、ハンドリング補助』、預かりの犬の管理	
22	担当犬の世話『現状況から管理の確認』、預かりの犬の管理	
23	担当犬の世話『栄養管理見直し』、預かりの犬の管理	
24	担当犬の世話『ケアでのトレーニング検討』、預かりの犬の管理	
25	担当犬の世話『散歩での道具見直し』、預かりの犬の管理	
26	担当犬の世話『冬季での管理環境整備①』、預かりの犬の管理	
27	担当犬の世話『冬季での管理環境整備②』、預かりの犬の管理	
28	担当犬の世話『健康チェック③』、預かりの犬の管理	
29	担当犬の世話『担当犬の共有事項まとめ①』、預かりの犬の管理	
30	担当犬の世話『担当犬の共有事項まとめ②』、預かりの犬の管理	
31	担当犬の世話『担当犬の共有事項まとめ③』、預かりの犬の管理	
32	担当犬の世話『世話管理での総括』、預かりの犬の管理	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
マナーハンドラーテストの合否50%、レポート提出50%（テスト合格はレポート無し） 成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	専門学校教員として15年勤務

２０２３年度　　国際ペットワールド専門学校　シラバス

科目名	犬管理実習Ⅱ				
担当教員	中野　貴行		実務授業の有無	×	
対象学科	ドッグトレーニング学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	○一般の犬を預かることで飼い主と犬とのコミュニケーション能力の向上 ○知らない犬をハンドリングすることで危険を予測、回避するリスクマネジメント能力の向上 ○対面授業で実施				
学習目標（到達目標）	将来に役立つ犬の基礎ハンドリングと接客を含めたコミュニケーション培う事が出来る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	愛玩飼養管理士２級教本、セルフコーチング、犬のしつけきちんとブック				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	動機付けと管理の注意事項	犬を預かり管理することへの動機付けと注意
2	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
3	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
4	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
5	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
6	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
7	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
8	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
9	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
10	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
11	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
12	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
13	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
14	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
15	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
15	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
15	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
16	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
17	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
18	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
19	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
20	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
21	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
22	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
23	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
24	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
25	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
26	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
27	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
28	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
29	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
30	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
31	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践
32	管理実践	一般の方から愛犬のお預かりと管理を実践

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(60点未満)とする。	一般の犬が参加するため、犬に対してケガが無いような接点を実行する。

実務経験教員の経歴	専門学校教員として15年勤務

２０２３年度　　国際ペットワールド専門学校　シラバス

科目名	ドッグマネジメントⅡ				
担当教員	中野　貴行		実務授業の有無	×	
対象学科	ドッグトレーニング学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	担当犬の管理を進めていく上で、検討が必要なことやグループ内で共有することなどを決定していく。				
学習目標（到達目標）	犬の管理で考えるべきこと、注意すべきことなどを検討し、実行できるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	プリント配布、使用する道具の紹介				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	担当犬で統一すべきことの検討	
2	犬世話の流れと注意事項①　犬管理計画（投薬、シャンプー、栄養）（グループディスカッション）	
3	犬世話の流れと注意事項②　犬世話時に必要なものとは？（グループディスカッション）	
4	グループでの犬管理の目標（１年後の犬は・・・？）（グループディスカッション）	
5	散歩時対応ケーススタディ	
6	散歩時対応ケーススタディ②体験事例の情報共有	
7	グループミーティング（これまでの管理でうまくいった点、改善点）	
8	GCTについての概要説明	
9	GCT テスト項目研究（トレーニング、管理を検討）	
10	犬管理計画見直し（グループディスカッション）	
11	トレーニングで統一することをディスカッション	
12	GCTミニテスト実施	
13	犬の環境設定再検討（道具、フード、処置など）	
14	内容まとめ	
15	期末試験実施	
16	試験解説	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
筆記試験100% 成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	専門学校教員として15年勤務

２０２３年度　　国際ペットワールド専門学校　シラバス

科目名	ドッグトレーニング実習Ⅱ				
担当教員	長谷川　あや甫		実務授業の有無	○	
対象学科	ドッグトレーニング学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	96
授業概要、目的、授業の進め方	グッドシチズンテスト（以下GCTと記載）について理解を深め、各項目についてトレーニングを行うことで家庭犬に必要なトレーニングができるようになる。更に、他のトレーニングを行うことで、犬とのコミュニケーションを図れるようになる。				
学習目標（到達目標）	GCT模擬試験に向け、必要なトレーニングスキル及びハンドリングスキルの習得及びドッグトレーナーとしてのより高度なトレーニングスキルの習得できる、様々なトリックのトレーニングやノーズワークについても知ることができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	GCTレギュレーション				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	担当犬の現状把握（健康面／行動面など）及びコミュニケーション	
2	担当犬の状況確認、アイコンタクト（目の前、顔の横、背中）、ルアーで歩く	
3	ヒールポジション、オスワリ待って、抱き寄せ、アイコンタクト、アテンションヒーリング、カラーの脱着	
4	屋外でトレーニング（すでに出来ることを行う、今教えてる事を行う、おいで）	
5	様々な場所でトレーニング	
6	ヒールポジションから待って（対面、1歩以上離れる）、アテンションヒーリング→オートSit、アテンションで歩く	
7	カラー（タオルに顔を入れる、エリザベスカラー装着など）、おいで（立っている足の間に前足が入るように）、ヒールポジションから待って（正面に立つ、そこからできれば離れる）足拭き、 セトルダウン	
8	ステイで犬の周りをハンドラーが周る、他人への挨拶、他人が触る、ヒーリング→ガサガサの刺激の中を歩く	
9	ステイで犬の周りをハンドラーが周る、他人への挨拶、他人が触る、呼び戻しで、ハンドラーの足の間に入れる	
10	アテンションヒーリング（イスをまわって）、呼び戻し（ロングリードで）	
11	ヒールポジション、待って（おすわり、ふせ）、アテンションヒーリング、おいで：呼ぶ際の姿勢に注意（立ったまま呼ぶ、ガイドを入れる）	それぞれの犬でトレーニングのアプローチを指導
12	GCTデモ（テスト項目の通し）を見る、それぞれでGCTの自主練	
13	実技試験について、それぞれで練習	1. H.P.（手のシグナルあり。誘導なし）からオスワリ待って。リードの先端まで離れる（20～30秒）ハンドラーは後ろをまわってH.P.に戻る
14	苦手項目、トレーニングについてグループで検討	
15	実技試験実施	
16	実技試験解説	
17	GCT項目の各項目の細分化	
18	Goマットのトレーニング	（1，８m離れたところのマットまで送り
19	GCT項目のトレーニングについて	
20	Goマット、アラウンド＆前進、箱に入る（高さ、広さ、誘導Orシェーピング）→箱の中でスピンかターンor箱に乗る	アラウンド＆前進：アラウンドをしながら人は止まらずに前進し続ける
21	屋外でGCT通し練習（３～４項目ごとに人を変える）	
22	Goマット、アラウンド+前進、箱に入る（スピン＆ターン）	
23	室内でGCT通し練習	
24	Goマット、アラウンド+前進、箱に入る（スピン＆ターン） スピン＆ターン（声符で）、足を後ろから跳ぶ、立って待って（伏せ、おすわりから誘導で）	
25	教えなければいけない行動、項目間の集中をどう取るのか？（タッチやスピン、ターンなど）、ツールを増やす（増やすためには行動として「教えなければいけない」）※上記を話し合って、解決方法を考える	
26	スピン＆ターン（声符で）、足を後ろから跳ぶ、立って待って（伏せ、おすわりから誘導で）、マズル（小指側から鼻先を入	
27	教えなければいけない行動、項目間の集中をどう取るのか？（タッチやスピン、ターンなど）、ツールを増やす（増やすためには行動として「教えなければいけない」ことを練習	
28	スピン＆ターン（声符で）、足を後ろから跳ぶ、立って待って（伏せ、おすわりから誘導で）、マズル（小指側から鼻先を入	
29	GCTの通し練習（各チームで項目の練習）	
30	スピン＆ターン（声符で）、足を後ろから跳ぶ、立って待って（伏せ、おすわりから誘導で）、マズル（小指側から鼻先を入れて来て止まる）、ガムテープのタッチ（壁の垂直面）（鼻先	
31	GCTの通し練習（各チームで項目の練習）	
32	スピン＆ターン（声符で）、立って待って（伏せ、おすわりから誘導で）、マズル（小指側から鼻先を入れて来て止まる）	
33	ノーズワーク（導入）	
34	ガムテープのタッチ（壁の垂直面）（鼻先でタッチ）、フロント、手のウィーブ	
35	ノーズワーク（ボディランゲージの読み方）	
36	フロント、手のウィーブ、立って待って（おすわり、伏せから誘導で）	
37	ノーズワーク（レベルアップ）	
38	後期テストの打ち合わせ（ゲーム）	
39	ノーズワーク、サーキュレーターを使う（高さ、箱の中、箱を重ねるなど）	
40	企画ゲームのリハーサル	
41	テスト内容について	Goマット、アラウンド＆前進（5歩以上）、立って待って（おすわり、伏せから誘導で）5秒以上止まること、マズル（小指側から鼻先を入れる）3秒以上止まる、フロント
42	企画ゲーム注意点、改善点の指導	
43	実技試験実施	
44	実技試験（企画ゲーム）実施	
45	実技試験実施	
46	実技試験（企画ゲーム）実施	
47	実技試験実施	
48	実技試験解説	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
実技試験100％ 成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	しつけインストラクターとして25年以上活動

２０２３年度　　国際ペットワールド専門学校　シラバス

科目名	ドッグトレーニング実習Ⅲ				
担当教員	古俣　伸子		実務授業の有無	○	
対象学科	ドッグトレーニング学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	3	時間数	96
授業概要、目的、授業の進め方	GCTとマナーハンドラーテストに必要なトレーニングを実施する。 家庭犬に必要なトレーニングとどのように教えるかを考えさせながら、授業を進める。				
学習目標（到達目標）	1.GCTの項目とそのトレーニングについて理解できる。 2.マナーハンドラーテスト合格				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	GCTレギュレーション、マナーハンドラーテストレギュレーション				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	イージウォークハーネスジェントルの付け方	
2	誘導でおすわりふせたってなど犬の体を自分の思うようにコントロールが出来るか確認	
3	ヒールポジションやサイドポジションに入れるための誘導とレベルアップ　フロント　　クリッカーでタッチスティック	
4	何処までできているかの確認レベルを上げるためにはどうすか話し合いレベルアップ	
5	待っての今の状態の確認　とレベルアップ号令でのヒールポジション	
6	待っての練習　立っての練習	
7	待っての練習	
8	待っての練習　　ヒーリング	
9	待って刺激を入れる　　ヒーリング	
10	待ってのレベルアップ　　ヒーリング速度変化	
11	待ってのレベルアップ　　ヒーリング速度変化	
12	待ってのレベルアップ　　ヒーリング速度変化	
13	ヒールポジションのレベルチェック班で話し会いレベル上げ	
14	ヒーリング歩き出しから各班でのレベルアップ	
15	GCTの項目チェック　　項目２・３の練習	
16	GCTの項目チェック　　項目２・３の練習	
17	GCT練習　　待って　体を触る練習ヒーリング	
18	GCT練習　　待って　体を触る練習ヒーリング	
19	人ごみ刺激の中でのヒーリング　　待って	
20	GCTの項目チェック通し練習	
21	GCT各班の苦手な部分　　四肢を拭く獣医の診察　食事マナー	
22	マナーハンドラーテストに向けて　　いろんな犬での練習	
23	マナーハンドラーテストに向けて	
24	マナーハンドラーテストに向けて通し練習	
25	マナーハンドラーテスト練習（項目練習）	
26	マナーハンドラーテスト練習（通し練習）	
27	マナーハンドラーテスト練習　足元でフセの練習	
28	マナーハンドラーテスト練習　ヒーリング	
29	マナーハンドラーテスト練習　待って	
30	マナーハンドラーテスト練習（通し練習）	
31	マナーハンドラーテスト練習（通し練習）	
32	振り返り	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
授業の取り組み100% 成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	しつけイントラクターとして26年以上活動

２０２３年度　　国際ペットワールド専門学校　シラバス

科目名	しつけインストラクター実習				
担当教員	金子　真弓		実務授業の有無	○	
対象学科	ドッグトレーニング学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	132
授業概要、目的、授業の進め方	1.DT担当犬のトレーニング実技を行う。 2.授業内でプレゼンテーションの練習、しつけ教室を開催、飼い主指導が出来るようになる。 3.最終試験として筆記試験、実技、プレゼンテーションを実施。				
学習目標（到達目標）	1.トレーニングの知識と技術を習得する 2.飼い主へのしつけをアドバイスできるようになる 3.飼い主とのしつけを通して円滑なコミュニケーションが図れるようになる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	無し				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	担当犬とのトレーニング（ヒールポジション、犬を回す、オスワリとフセの連続誘導）	
2	担当犬とのトレーニング（アテンション、誘導、待たせる、ヒーリング）	
3	プロンプト、担当犬のトレーニング（ハンドシグナル）	
4	プレゼン（初めて犬を飼う飼い主に勧めるモノorコト） 担当犬のトレーニング（好きなトリックでモチベーションアップ）	
5	ハンドリングテスト（マッテ、ブラッシング、ヒーリングなど）	
6	ケーススタディ（どうアドバイスするかを考える） 担当犬のトレーニング	
7	プレゼン（犬に関わることで頑張ったこと） 担当犬のトレーニング（各姿勢でのマッテ、タッチとスピン）	
8	強化率について	
9	担当犬のトレーニング（チューストゥヒール）	
10	しつけ教室について 担当犬のトレーニング（トリーツを考える、バーンのトリック）	
11	古典的条件付、オペラント条件付について	
12	Tタッチについて	
13	ハンドリングテスト 担当犬のトレーニング（バック）	
14	カウンセリングについて 担当犬のトレーニング（ダンベルの持来）	
15	筆記試験 ハズバンダリートレーニングについて 担当犬のトレーニング（ダンベルの持来、触ることの慣らし）	
16	筆記試験の返却と解説	
17	しつけ教室について（内容、クラス、オリエンテーションなど）	
18	しつけ教室（学内）の参加者について 刺激性制御（Get it）	
19	オペラント条件付の強化⇒ランダムにしていく	
20	しつけ教室オリエンテーション	
21	しつけ教室実技1回目	
22	しつけ教室実技2回目	
23	しつけ教室実技3回目	
24	しつけ教室実技4回目	
25	しつけ教室実技5回目	
26	しつけ教室実技6回目	
27	しつけ教室のフィードバック	
28	最終試験について	
29	プレゼンについて	
30	マナーハンドラーテストのトレーニング	
31	最終試験①	
32	最終試験②	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
実技試験50%筆記試験50% 成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	しつけイントラクターとして約25年以上活動

２０２３年度　　国際ペットワールド専門学校　シラバス

科目名	PC実習Ⅱ				
担当教員	古俣　秀子		実務授業の有無	○	
対象学科	2年生全学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	Excelの理解を深め、自信をもって活用できる基本技能を身につける				
学習目標（到達目標）	Excel表計算処理技能認定試験　３級　取得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	Excel2021 クイックマスター 基本編　Excel2021問題集				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	新規フォルダー作成・ファイルコピー Chapter1 Excelの基本　Chapter2 データの編集	画面構成、用語の確認 範囲選択　文字の入力、数値の入力
2	Chapter2 データの編集 ●問題集 練習問題1【問題2】(1)～(3)	日付の入力、オートフィル、数式、合計関数、相対参照・絶対参照、コピー・移動
3	Chapter3 表の編集 ●問題集 練習問題2【問題2】(1)～(3)	セルの書式設定、表示形式
4	Chapter7 関数	基本関数の意味と使い方（平均、最大、最少、データの個数、順位）
5	Chapter8 データベース機能 ●問題集 練習問題1【問題2】(4)～(6)、【問題3】	並べ替え、フィルター
6	●問題集 練習問題2【問題2】(4)～(6)、【問題3】 Chapter5 グラフと図形の作成　Chapter6 ブックの利用と管理	グラフ作成・編集、ワークシート名の変更、シートコピー
7	Chapter4 ブックの印刷 ●問題集 練習問題1 完成	ページ設定、グラフ作成・編集の基本、スパークライン
8	●練習問題２～3	解説誘導しながら 答案解答作成
9	●練習問題4～5	各人のペースで解答 巡回してチェック・ポイント解説
10	●練習問題6～7	〃
11	●練習問題8～9	〃
12	●練習問題10、模擬問題2	〃
13	●模擬問題3～4	〃
14	●模擬問題5～6	〃
15	●試験実施プログラム 模擬問題1	前問題振り返り 時間計測して実施、解答ファイル採点
16	検定	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	パソコンスキルはどの業界へ就職しても必須となります。パソコンの基本的な操作の仕方、表計算やデータを利用した簡単な資料作成の方法をしっかりマスターしましょう。授業中に分からない事や上手く出来なかった事は休み時間を利用して練習をしましょう。

実務経験教員の経歴	一般向けパソコン教室において20年以上関わっていた

２０２３年度　　国際ペットワールド専門学校　シラバス

科目名	異文化研究（海外研修）				
担当教員	中野　貴行		実務授業の有無	×	
対象学科	ドッグトレーニング学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	異国の文化（言語、気候、風習、歴史など）を研究することで日本との違いなどを考察する。 また、実際に海外に行き異国の文化に触れることで理解を目指す。 対面授業で実施。				
学習目標（到達目標）	異国の文化について理解を深めることができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	無し				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	飛行機にて移動	パスポートの申請、飛行機の搭乗を経験する
2	現地到着、研修1日目	現地での食事、お金の支払いなどを経験する
3	研修2日目	現地での簡単な会話を行いながら文化に触れる
4	研修3日目	現地で様々な体験を通して文化に触れる
5	研修4日目、日本へ帰国	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(60点未満)とする。	

実務経験教員の経歴	専門学校教員として15年勤務

２０２３年度　　国際ペットワールド専門学校　シラバス

科目名	保育・介護実践				
担当教員	中野　貴行		実務授業の有無	×	
対象学科	ドッグトレーニング学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	犬の幼児期や老齢期の管理や接し方について学ぶ パワーポイントや実際の道具を使用しながら授業を進めていく				
学習目標（到達目標）	犬の管理で考えるべきこと、注意すべきことなどを検討し、実行できるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	プリント配布、使用する道具の紹介				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	幼児期と老齢期について①	
2	幼児期と老齢期について②	
3	幼児期でのポイント①	
4	幼児期のポイント②	
5	幼児期のポイント③	
6	老齢期のポイント①	
7	老齢期のポイント②	
8	老齢期のポイント③	
9	今までの振り返り	
10	必要な道具について	
11	接し方と注意すべき点について	
12	管理と注意すべき点について	
13	食事と介護について	
14	内容まとめ	
15	期末試験実施	
16	試験解説	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
筆記試験100% 成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	専門学校教員として15年勤務

２０２３年度　　国際ペットワールド専門学校　シラバス

科目名	補助犬トレーニング実習				
担当教員	長谷川　あや甫		実務授業の有無	○	
対象学科	ドッグトレーニング学科	対象学年	2	開講時期	前期後半
必修・選択	選択	単位数	1	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	補助犬の役割とそのトレーニング方法を理解し、実際にトレーニングをどのように行うを知る。 補助犬の役割やトレーニングについて知識として理解させて、実際の犬でトレーニングを行う。				
学習目標（到達目標）	補助犬の介助動作1つがトレーニングできるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	無し				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	補助犬の役割について知る	補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）の役割について知ることで人との関わりを理解する
2	補助犬の介助動作を理解する①	どのような介助動作があるかを知る
3	補助犬の介助動作をどのようにトレーニングするかを考える	学習理論を用いて実際にどのようにトレーニングするかを計画する
4	介助動作のトレーニング①	計画した介助動作を実際の犬でトレーニングする。
5	介助動作のトレーニング②	①での進行状況を踏まえて、改善実行を繰り返して介助動作のトレーニングを完成させていく。
6	介助動作のトレーニング③、実技試験について説明	②での進行状況を踏まえて、改善実行を繰り返して介助動作のトレーニングを完成させていく。
7	実技試験（トレーニングした介助動作をチェックする）	
8	実技試験解説	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
実技試験100% 成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	しつけインストラクターとして25年以上活動

２０２３年度　　国際ペットワールド専門学校　シラバス

科目名	ドッグスポーツ実習Ⅱ				
担当教員	古俣　伸一郎		実務授業の有無	○	
対象学科	ドッグトレーニング学科 しつけインストラクターコー	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	ドッグスポーツの競技について理解し、ハードルレースとアジリティについて担当犬とトレーニングを行う。トレーニングは各担当グループで考えながらどのようにトレーニングしていくかを進めていく。				
学習目標（到達目標）	ドッグスポーツを通じて犬とのコミュニケーションを図ることができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	無し				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ドッグスポーツ説明　ハードル設営ハードル実技	
2	いろんな競技の説明ハードル設営ハードル実技	
3	ハードル　ディスクとフリスビーの違い ディスクの投げ方	
4	ハードル進行状態の確認 ハードル、アジリティについて	
5	ハードルのトレーニング アジリティのジャンプとトンネル班ごとでトレーニング	
6	ハードル出着ないところの直して強化していく アジリティ単品練習から流れの練習	
7	ハードルとアジリティのコースをノーリードでやる	
8	ハードルアジリティをノーリードでやってみての反省と改善点のトレーニング	
9	アジリティ単品とコース練習 ハードル練習ディスクを使ってのゲーム	
10	ハードルとアジリティ大会に出るための改善点と強化練習	
11	ハードルアジリティの反省と改善点のトレーニング 役割分担 アシスタントの説明	
12	ハードルアジリティタイムを取り実践を考えて改善点を強化	
13	AFCで学んだ事の発表ハードルアジリティタイム計測をして改善点の強化	
14	ジャンパーズコース練習	
15	ジャンパーズコース練習	
16	コースのタイム計測	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
実技100% 成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	20年以上アジリティーの大会参加、入賞